

令和元年度第1回秩父市総合教育会議議事録

期 日	令和元年5月31日（金曜日）
時間・場所	11時5分～11時55分・本庁舎3階庁議室
出席者	<p>久喜市長、倉澤教育長、新井教育委員、増田教育委員、浅見教育委員 高野教育委員</p> <p>市長室長、市長室次長兼地域政策課長、地域政策課主幹 教育委員会事務局長、事務局次長2名、事務局専門員兼学校教育課長、 教育総務課長</p> <p>傍聴者なし</p>
会議内容	<p>○市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市で痛ましい事件、豊島区で悲惨な交通事故があった。秩父では起こってはならない。こどもたちの集団登下校や見守りなどを実施しているが、こどもだけになる場面もあり、悩ましい問題だ。 ・新元号「令和」になってから初めての会議である。この新しい時代に育つ子どもたちが健やかに育つよう、市長として最善を尽くしていく。 ・今回の議題は、「放課後児童対策について」とさせていただいた。過去2回の議論の経緯と現況を踏まえ、今後を見据えた形の意見交換を進めたい。 <p>○教育長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代が変わって「令和」になった。放課後児童対策は重要な政策である。委員の皆様から忌憚のない意見をいただき、今後に活かしていきたい。 <p>○議事</p> <p>(1) 放課後児童対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料について、質問が2点ある。1点目は、プログラムの一体化が思うように進まぬ理由として「学童保育指導員とふれあいの指導員（学校補助員）の意識の違い」を挙げているが、「意識の違い」とは何なのか。2点目は、今年度の取組として「(市内小学校5校をモデル校とした) 合同保育」とあるが、「合同保育」とは、ふれあい学校と学童保育を一緒にやるということなのか。(新井委員) ・意識の違いについて、学童保育とふれあい学校では研修機会などに違いがあり、お互いが上手くいかなかった部分がある。学童保育の場合、支援員といった資格があり、研修の機会もある。また、14学童すべてが経営方針や保育目標を立てている。ふれあい学校の場合、保育目標はあるが研修等の機会はない。合同保育については委員ご発言のとお

- り。学童とふれあいが一緒になって活動するものである。(教委事務局)
- ・一体化に向けて一緒にやっていくということになっている。これまでに合同で研修会を実施した。市として統一した研修により実施していきたい。(教委事務局)
 - ・一体化の姿がよく見えない。どういう姿を目指しているのか。(高野委員)
 - ・待機児童が多くいる状態。働く女性が増えており、需要が高まっている。ふれあいは利用時間が短い、利用している保護者の70%以上は働く女性(母親)である。子どもたちの学習、遊び、生活体験などについて合同保育を一緒にやっという流れである。(教委事務局)
 - ・今年度は5校をモデル校として進める。この5校は学童とふれあいが隣り合っている所。部屋を一緒にしてやっっていく。親の就労の有無に関わらず進めていきたい。(教委事務局)
 - ・ふれあい学校は無くなるのか。(高野委員)
 - ・残しつつ、という方向である。(教委事務局)
 - ・一体化した中で時間帯によって2つのコースを使うようなイメージだろうか。(久喜市長)
 - ・幼保一体化と同じようなイメージである。ふれあいは親が就労していない方でも利用できる。(教委事務局)
 - ・今回は学童とふれあいが隣接しているところで試行する。一体化というと難しく聞こえるが、夏休みを中心として、合同保育の試行を進めていく。ふれあいは校長、学童は教委事務局が管理している。指導員同士の意思疎通、研修を実施していく。国補助、県補助を最大限有効に活用するという考え方からすると、ふれあいを縮小して学童に一本化していくのが方向性だと考える。急にはできないので、試行的に一体化のチャレンジを行っというと考えている。(倉澤教育長)
 - ・なぜ、ふれあいや学童を使う人が多いのか意見を聴いた。子どもを預けることに負い目を感じる方もいるし、考え方は人によって様々である。学童を利用せず帰宅しても、一人で留守番をしてゲームやSNSに熱中してしまうような例もある。管理者のもと安心して遊べる場所に預けたいといったニーズがある。子育て支援は親が楽するためだけのものではないが、安心して預けられる環境も求められている。昔は地域で子育てをするようなつながりがあったが、今は核家族化が進んでいる。子育ては親、行政がサポートという考え方もある。一生の一時期に子育てに専念できる環境を整えることが大事だと思う。ふれあいを見直すなら、その思いを汲み取っていただけると良い。(浅見委員)
 - ・ふれあい学校は、親にとってはありがたい事業。充実することが、住み続けたい秩父市づくりにつながる。一本化の中で留意してもらいた

い点として、ふれあいの指導員は学校補助員としても、個別指導が必要な児童へのサポートなどの学習支援、学校行事のサポートなどで活躍している。学校補助員の人件費予算の確保をお願いしたい。5か所のモデル校については、できる所から始めてみて、プラス面を保護者に説明し、理解を進めてほしい。それぞれの指導員にも理解してもらうよう取り組んでほしい。今後、指導員との人間関係づくり、指導法などの研修などを、現場の声に耳を傾けながらリーダーシップを発揮して行ってほしい。(新井委員)

- ・指導員は、一番の課題である学力向上についても欠かせない存在になっている。プール指導なども行っている。現在、学習障がい、発達障がいの児童対応などで苦慮している状況があるが、指導員の存在が担任の負担軽減にもつながっている。一体化については、すぐに進めるのは難しいのではないかと。徐々にやっていくのが良いのでは。今回の夏休みの試行が、今後に向けて良い形となってほしい。(高野委員)
- ・先日、ふれあいの成り立ちを教育長から聞いた。色々と課題はある。次の形を生み出すために苦労をなさっており、今年の夏から新たなスキームのための試行がなされると認識している。過去は過去として、未来に向けた一石を投じるということ。色々な要望はあると思うが、人員の確保やコスト面も考えながら進めていくとなると、全ての想いを取り入れることは難しい。大きい枠組みとしての子育て支援があるので、今夏の試行をやってみたら、今後どういう風にやっていけば良いのか見えてくるのではないかと。人を集めるのが大変な時代だし、人の質を高めるのも大変な時代である。現実的なことをしていかなければならない。コスト、人材、要望のそれぞれを、どのようにバランスをとるのか。難しい問題である。(増田委員)
- ・色々と意見を出していただきありがたい。放課後児童対策に色々パターンがあることは必要かもしれないが、ある程度統一した上で、それぞれのスキルアップを図っていききたい。今回はチャレンジとして、まずは5校で取り組んでみたい。当然批判も出るだろうし、民間で取り組んでいる地区のことも考慮する必要がある。学童中心に切り替えていかなければならないと思っている。学童の中で複数の利用時間帯を設定するような形が考えられる。また、浅見委員のご指摘ももつともである。親の選択肢にできるだけ応えられるような仕組みづくりが行政の仕事である。(久喜市長)
- ・今回の試行の結果は秋には出ると思う。次回の会議で結果を報告したい。委員の皆さんも、地域で声を聴いておいてもらいたい。(久喜市長)
- ・現在、指導員不足が全国的な課題になっている。月給が高くない中で、

優秀な人材を確保していくのは大変である。一方で、保育の質は高いものが求められる。人件費の高騰などの影響もあり、今でも厳しい状況がある。国としても2020年に向けて25万人の受け皿拡大を進めている。(倉澤教育長)

- ・国としても打ち出しているということは、国による支援の動きがあるのか。(高野委員)
- ・学童に対しては支援がある。ふれあいについては全くない。今の件も、学童への支援という中での話である。学童保育の受け皿拡大という方向性である。(教委事務局)
- ・ふれあいの利用基準は「学童保育の基準外の方」となっているが、実際の所、ふれあい利用者の70%は就労していると聞いたが。(高野委員)
- ・ふれあいの保育料が月額2,000円(学童は4,200円)という負担差も影響しているかもしれない。(教委事務局)
- ・民間や幼稚園等で実施している学童も満員という状況である。(教委事務局)
- ・ふれあいの保育料を見直す動きはあるのか。(新井委員)
- ・財政当局から再三指摘されている。学童保育も県内で最低水準の状況。もう少し負担を上げて良いのでは、となっている。(教委事務局)
- ・委員の中でも、ふれあいの保育料を少し上げた方が良いのではないかと、という議論があった。高学年にとって必要性がどうなのか、という話もあった。(新井委員)
- ・低学年、高学年など対象の考え方については、職員の中でも議論が出ている。(教委事務局)
- ・ふれあい学校の実際の出席状況を昨年から見ている。(倉澤教育長)
- ・およそ50%くらいの出席状況である。(教委事務局)
- ・数字としては待機児童が出ているが、実際の出席率としては50%程度である。2,000円という保育料の安さに関係している面もあると思われる。(倉澤教育長)
- ・制度が複雑になってきている。国の方向性も見て、原点に帰って整理していきたい。ふれあいは市の全額持ち出しになっている。安全を軽視するのではなく、学童を充実して質を上げていきたい。(倉澤教育長)

○その他

- ・新井委員(6月21日で任期満了)が、今回が最後の総合教育会議出席となるため、ご挨拶をいただいた。

以上